

第6学年 図画工作科学習指導案

図画工作, 美術科研究室

題材 12歳の自分を見つめて

目標

- 自分らしさやよさを見つめ直し自分の様子や気持ちを絵に表すことを楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 自分の様子や気持ちが表れるように画面への入れ方, 顔の表情や目の表現, 角度などを工夫しながら画面構成をすることができる。
(発想や構想の能力)
- 描画材や水彩絵の具などの特性を生かし, 自分の様子や気持ちに合わせた表し方を工夫することができる。
(創造的な技能)
- 参考作品や自画像を鑑賞し, 表現する人の思いや意図, 表し方の工夫などを話し合い, 自分の感じ方や見方を深めることができる。
(鑑賞の能力)

指導観

- 本学級の児童は, 身近なもののスケッチでは, 分析的に集中して描く力があり, 形をとらせることはできているものの, 観察にとどまっている実態がある。また, 画用紙の大きさを考えながら自分の表したいものの大きさや位置, 角度など画面の構成を意識しながら描いている児童や表現主題と材料や用具, 表現方法を結びつけながら表現したり, 水彩絵の具の表現効果を十分に生かして主題を明確に表現したりする児童は少ない。図画工作科についての実態調査では, 83%の児童が図画工作科が好きと答えている。しかし, 絵に表すことを難しいと答えた児童は全体の42%で, 思うように形や線が描けないと学習活動の前半部分での課題を挙げている児童が多かった。

このような実態から, 表現主題と関連した画面の構成などの発想や構想の能力をつけたり, 水彩絵の具の特性を生かして表し方を工夫する創造的な技能を高めれば, 創造的に絵を描きだすことができるのではないかと考える。

- 本題材の指導にあたっては, まず, 主題を明確にする活動では, ゴッホのやモディリアーニなどの参考作品や教科書題材を鑑賞し, 自画像や人物画のいろいろな表現方法にふれさせる。顔の表情や目の表現, 背景の表し方などでどんな感じがするか話し合わせる。そして, 図工ノートに自分のどんな様子や気持ちをどのように表したいかを絵や文で書かせる。自分の様子を具体的に表現していくために, 図工ノートや対話などから見取り, 個に応じた手立てとしていく。

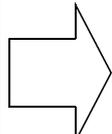
次に, 画面を構成し線描きする活動では, 児童の図工ノートを分析し作成した顔の表情や目の表現, 画面への入れ方のヒント資料を連続, 比較提示し, 自分の様子や気持ちがよく表れる画面の構成を考えさせる。また, 背景の表し方を見通しながら線描きを進めさせる。線描材については, 鉛筆を用い, 太さや濃淡を工夫しながら線描きし, 線の美しさや面白さを味わわせる。顔の表情, 角度, 画面への入れ方など画面構成の工夫についての発想や構想の能力を重点的に評価していく。

そして, 彩色する活動では, 表したい自分の様子や気持ちを表せるように, 表現方法や描画材についての図工ノートから分析し作成したヒント資料を比較提示し, 自分の表したい様子や気持ちに合った表現方法を選んだり組み合わせたりしながら表現活動に取り組めるようにする。児童の技能実態を把握し, 一人一人の思いに沿った表現ができるように個に応じたヒント資料や彩色の活動演示などをしていく。表したい様子に合わせた表現方法の工夫についての創造的な能力を重点的に評価していく。

最後に, 鑑賞する活動では, 自分や友達の作品を鑑賞する交流の場を設定し, 表現方法の違いによるよさを味わい, 表現意図と題名との関連を考えながら作品を鑑賞することができるようにする。

指導事項と題材の関連表

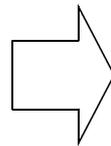
	指導要領解説 (平成元年・11年)
主 題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象をもとにしたり, 経験したことの状態や内容から感じ取ったことなどから選択する。 ○ 経験や物語, 材料や色, 技法によってできたものなどからの想像をふくらませる。
構 想	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表したいことの形や色の美しさ, 力強さ, 面白さ, 不思議さなどの特徴をしっかりとらえる。 ○ じっくり構想を練り, いろいろ試みながら表す。 ○ 表したい感じが表れるように自分の感覚などを働かせて, 画面のどこに何をかくかなどを工夫する。 ○ 自分の主体的な見方や感じ方で自分なりに形や色の特徴などを感じ取り, 画面上に効果的に表すための構想を練る。 ○ 画面の構成の法則的なものや遠近などの表し方を自然に気付いていくようにする。
材 料 用 具	<ul style="list-style-type: none"> ・主材料は水彩絵の具 ・前学年までに経験した材料や用具に加えて, 自分が選んだ材料 ・クレヨン・パスなどとの併用
表 現 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに経験した表現方法や材料の生かし方などを組み合わせる新たな方法を考えるなどしながら表現する。 ○ 表したい感じをよく表すために材料や用具などの特性を考え, 技法などを工夫する。 ○ 表したい思いと形や色との相互のかかわり合いの中で工夫する。



教科書題材

5・6年下 p. 12 友だちのなにげないしぐさを	5・6年下 p. 4-14 自画像 (ゴッホ)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの顔の特徴をとらえて表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内面性やそのときの気持ちがよく伝わるように表現する。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 友だちの魅力が伝わるように画面の構成を工夫する。 ○ 斜めを向いている友だちを描くことで, 友だちの思いが伝わるように表現する。 ○ 胸部から頭部までを描き, 目や手の動きから友達的心情を表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 右側から自分を見つめ, 光を意識して画面を構成している。 ○ 伏し目がちで, 眉間にしわがある様子, 口を固く閉じている様子など顔の表情や目の表現, 体の向き, 角度などで自分の気持ちを表している。 ○ 寒色系の色調, 渦巻き模様のような筆使いで背景を表し, 内面性を表現している。
<ul style="list-style-type: none"> ・54×38cmの用紙 ・黒サインペン ・水彩絵の具 (淡く彩色している) 	<ul style="list-style-type: none"> ・油絵の具 ・布キャンバス
<ul style="list-style-type: none"> ○ 線描の美しさを生かして, 広く淡く彩色する。 ○ 顔や服の細かいしわなどを彩色によって表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青や緑などの寒色系の色調で自分の気持ちを表している。 ○ 渦巻き模様のような筆使いで背景を表し, 内面性を表現している。 ○ 光を意識して, 彩度の低い色で影を彩色している。

5・6年下 p. 4-8 おさげ髪の少女 (モディリアーニ)	5・6年下 p. 12,13 わたしの町
○ 何か言いたそうにしている少女の雰囲気があるように表現する。	○ 見慣れた風景をあらためて見直し, 地域への愛着を表現する。
○ 柔らかい曲線で少女の様子を表している。 ○ 少女の正面から描いている。 ○ 画面の左側から光が当たっているように画面の構成をしている。 ○ 単純な形態を組み合わせ, 誇張して表現している。 ○ 背景は実際の部屋の様子を表している。 ○ 背景の左右の構成の違いを生かして画面構成している。	○ 用紙の向きを効果的に使い, 空間の広がり表現する。 ○ 近景・中景・遠景で構成し, 遠近感を表現する。 ○ 建物の重なりから遠近感を表現する。 ○ 印象に残ったものを強調し, まわりのものを省略する。 ○ 町のシンボルの教会や山が特徴的に表れるように画面を構成する。
・油絵の具 ・布キャンバス	・鉛筆とはしペンを組み合わせて表現 ・線描材の特性を生かした水彩絵の具での彩色
○ 赤や朱などの暖色系の色調で少女の様子を表している。 ○ 光を意識して, 彩度の低い色で影を表している。 ○ 線描きの線を残しながら筆使いを工夫して彩色している。	○ 線描材の特性を生かし, 濃淡や線描材を組み合わせて遠近感を表現している。 ○ 光と影を意識して彩色している。 ○ 画面構成と彩色で遠近感を表している。 ○ 色調を考えて彩色し雰囲気を表している。



本題材

12歳の自分を見つめて
○ 自分らしさやよさを見つめ直し, 自分の様子や気持ちがよく伝わるように表す。 ・未来に向かって ・私の中の私
○ 自分の様子や気持ちがよく表れるように画用紙(縦, 横)の使い方を考える。 ○ 自分を画面のどの位置に入れるか, 顔の表情や目の表現をどうするか, 角度, 背景をどう表現するかなど考えながら画面を構成する。 ○ 表したい様子に合わせて, 鉛筆の特性を生かしながら表現する。 ○ 背景を自分の気持ちが表れるように彩色や筆使いで表したり, 実際の風景を合成したりして表現する。
・4つ切り画用紙 ・鉛筆(2B~4B)で細かい部分を表現 ・水彩絵の具
○ 線描材の強弱や濃淡を生かして線描きする。 ○ 線描きの美しさを生かして彩色する。 ○ まとまった色調や対照的な色調などにより, 気持ちを表現する。 ○ 彩色や筆使いを工夫して気持ちや質感を表現する。

題材における指導計画 (全8時間+課外)

	学習活動	具体的評価規準	指導事項	指導方法
朝活動	<p>1. 自分をクロッキーする。</p> <p>(1) 自分をクロッキーし、題名を付ける。</p> <p>(2) 友達の作品を見て話し合う。(課外)</p>	<p>・友達の表し方のよさを取り入れたり、新たな表し方を見付けたりなど自分の様子や気持ちを絵に表すことを楽しもうとする。(関)</p>	<p>○ 友達の表現との交流をきっかけに自分の表現をふり返ったり、表現方法を試したりやり直したりして取り組むこと。表現方法</p>	<p>・児童の作品を提示し、どのような様子か、自分の表現との違いやよさなど話し合わせ、自分の活動に生かせるようにする。</p>
主題を明確にする	<p>1. 参考作品を鑑賞して、気付いたことを出し合う。</p> <p>(1) 人物画の参考作品を鑑賞し、感じたことを話し合う。</p> <p>(2) 図工ノートに表したい自分の様子や気持ちを絵や文で書く。</p> <p>(1時間)</p>	<p>・自画像や人物画から表現する人の気持ちや意図、雰囲気など自分なりの感じ方や見方を深める。(鑑)</p> <p>・参考作品から自分の表現のヒントを得る。(関)</p> <p>・図工ノートにスケッチをして、表したい自分の様子や気持ちを明確にする。(発)</p>	<p>○ 参考作品のよさや美しさ、表現の意図などに関心をもち鑑賞すること。主題</p> <p>○ 参考作品の人物の表情や様子、角度、明暗背景の表し方などの点から自分の感じ方や見方を深めること。構想</p> <p>○ 顔の角度、目の表現などの細かい部分のスケッチや人物の画面への入れ方や背景の様子など全体の画面構成を考えながら構想するようにすること。構想</p>	<p>・児童に親しみのある作品や関心のもてる作品を選び、提示する。</p> <p>・顔や表情や角度、明暗で表情が違うことや背景の表し方を取り上げ表現活動に生かされるよう支援する。</p> <p>・画面の入れ方、顔や目の表現、角度などを考えて構想ノートに絵や文で詳しく書くよう助言する。</p>
画面を構成し線描	<p>2. 自分の様子や気持ちがよく表れるよう画面を構成し線描きをする。</p> <p>(1) ヒント資料をもとに様子や気持ちがよく表れるような画面の構成について話し合う。</p>	<p>・自分の様子や気持ちを伝えるために見通しをもって画面構成する。(発)</p> <p>・表したい自分の様子や気持ちがよく伝わるように画面への入れ方、顔の表情や目の表現、</p>	<p>○ 自分の様子だけでなく、背景の表し方の見通しももって画面構成すること。構想</p> <p>○ 自分が表したい様子や気持ちを顔の表情や目の表現、角度などを工夫しながら画面構成</p>	<p>・背景の表し方についてのヒント資料を提示する。</p> <p>・顔の表情、角度などについてのヒント資料を比較提示したり、画面への入れ方についての</p>

<p>き す る</p>	<p>(2) 鉛筆で線描きをする。</p> <p>3. 途中の作品を交流し、友達の表し方のよさを見つけ、自分の表現に生かす。 (2時間)</p>	<p>角度などを工夫して画面を構成する。(発)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の特性を生かしながら表現方法を試したり、やり直したりして線描きをする。(創) 友達の作品から表し方のよさや工夫を見付ける。(鑑) 	<p>したり、4つ切り画用紙の画面への入れ方を工夫したりすること。 構想</p> <ul style="list-style-type: none"> 表したい様子や気持ちに合わせて、鉛筆の特性(太さ、濃淡)を生かしながら線描きすること。材料・用具 表したい様子に合わせて、線描材の生かし方や表現方法を工夫すること。表現方法 	<p>ヒント資料を画面操作しながら表したい自分の様子や気持ちに合った画面構成ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 線描きがなかなか始められない児童には、画用紙に指描きするよう助言する。 線描材を効果的に使ったり、画面構成と主題を結びつけながら表現している児童の作品を紹介する。
<p>彩 色 す る</p>	<p>4. 表したい自分の様子や気持ちがよく表れるように、線描の美しさを大切にしながら表現方法を工夫して彩色する。</p> <p>5. 途中の作品を交流し、友達の表し方のよさを見つけ、自分の表現に生かす。 (4時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表したい自分の様子や気持ちに合わせて表現方法を選んだり、組み合わせたりしながら色づくりや筆使いなどを工夫して彩色している。(創) 友達の作品から表し方のよさや工夫を見付けている。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の様子や気持ち肌の質感などに合わせて、点ぬりやぼかしなどの筆使いや色調を工夫しながら彩色すること。材料・用具 表現方法 今まで経験した表現方法(重色、混色、にじみ、ぼかしなど)や水彩絵の具の生かし方(水の量、発色効果など)を工夫しながら表したい自分の様子や気持ちを表すこと。主題 	<ul style="list-style-type: none"> 混色や筆使いの工夫など比較しながら表現効果について考えられる資料を提示する。 試しのカードに混色や筆使いを試しながら彩色できるようにする。 参考作品から色は気持ちも表すことを感じ取らせる。 表現方法と気持ちを結びつけながら表現している作品を紹介する。
<p>鑑 賞 す る</p>	<p>6. 自分の思いと表現方法を結びつけたことなどを作品紹介カードに書く。</p> <p>7. お互いの作品を見ながら表現のよさや美しさなどを鑑賞する。 (1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 友達の作品への思いや意図を考ながら鑑賞したり、自分の見方や感じ方を深める。(鑑) 作品の意図を想像したり、同じテーマの他の作品と見比べたりしながら見る。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表した様子や表情と関連付けながら題名をつけること。主題 自分や友達の自画像を鑑賞し、よさや美しさに親しむこと。表現方法 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品のよさや気持ちを紹介するための作品紹介カードと友達の作品のよさを書くための鑑賞カードを準備する。 人物の様子、線描き、彩色の表現方法の工夫と題名が関連していることを考えさせる。

本時目標

- 表したい自分の様子や気持ちがよく伝わるように画面への入れ方、顔の表情や目の表現、角度などを工夫して画面を構成し、線描きすることができる。

(発想や構想の能力)

授業仮説

画面の入れ方、顔の表情や目の表現、角度などのヒント資料をもとに違いを見取らせ、感じ方を深めさせるならば、表したい自分の様子や気持ちに合った線描きをしていくだろう。

- 画面の入れ方、顔の表情や目の表現、角度、光のあたる方向による印象の違いについてのヒント資料を連続提示する。
- 顔の表情や目の表現、角度、光と影をはっきりと認識できる美術作品を提示し、表現する人の思いや意図と表現方法が結びついていることを理解させる。

準備

- 2B～4B鉛筆
- 黄色チョーク
- 4つ切り画用紙
- 図工ノート
- 構想ノート
- 参考作品
- 画面への入れ方についてのヒント資料
- 顔の表情や目の表現、角度についての資料

本時の指導と評価の考え方

本時は、自分の様子や気持ちがよく表れるように画面を構成し、線描きをする活動である。

本時の指導にあたっては、まずはじめに、前時までの学習を想起し、構想ノートをもとにどんな気持ちをどのように表したいのか出し合う。そして、自分の様子や気持ちを表すために必要なヒント資料を比較提示し、話し合う活動を行う。「画面への入れ方」「顔の表情や目の表現」「角度」についての資料を児童の図工ノートを分析して作成し、自分の

様子や気持ちに合ったヒントとする。児童は、前時に描いた構想ノートをもとに画面を構成していく。活動が停滞している児童には、参考作品やヒント資料をもとに画面の構成を進めていくよう活動提案する。

次に、画面構成ができた児童は、線描きを進めていく。線描材は鉛筆(2B～4B)を用いる。4つ切り画用紙にどのように、どう入れるかを鉛筆の特性を生かし、鉛筆で薄くあたりをつけて線描きの活動を進めていくようにする。線描きの活動がなかなか進められない児童には、画用紙に指描きしたり、黄色チョークでおおよその大きさを描いたりして進めるよう助言する。

最後に、自分や友だちの作品を見合い、見方や表し方の違いやよさを見つけたり、ふり返りカードで本時の自分の活動をふり返ったりして自己評価し、次時の活動に生かしていく。

本時の評価にあたっては、自分の様子や気持ちに合った画面への入れ方などの画面の構成や顔の表情や目の表現、角度などを中心に評価していく。クロッキーや画面構成を記した構想ノート、図工ノート、児童の作品や活動などの行動観察の見取り、評価補助簿を活用した評価を行っていく。また、児童が表したい自分の様子や気持ちと画面構成を結びつけながら線描きを進めるためのヒント資料の有効性を見取り、次時の指導へとつなげるようにしていきたい。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学習活動	具体的評価規準	指導事項	指導方法
導 入	<p>1. 前時の学習を想起し、本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>めあて</p> <p>自分の様子や気持ちがよく表れるように線描きをしよう。</p> </div>			
	<p>2. どんな様子や気持ちを表したいのか、どのように表現するのか出し合い、ヒント資料をもとに画面構成の表現効果について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒント資料からどんな様子や気持ちが伝わるか、どんな印象かなど自分の表現に生かすことができる。(関) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つ切り画用紙を縦に使うか横に使うかやどのあたりにどのくらいの大きさに描くか、表情、角度などの画面構成によって自分の表したい様子や気持ちなどをより明確に表せることを理解すること。 構想 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ児童の表したい気持ちを構想ノート进行分析し、把握しておく。 ・4つ切り画用紙への画面の入れ方、顔の表情と目の表現、角度について画面構成の比較資料を連続提示する。
展 開	<p>3. 表したい自分の様子や気持ちがよく表れるように画面構成を工夫し、線描きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の様子や気持ちに合った画面への入れ方顔の表情や目の表現、角度などを考えながら画面を構成している。(発・構) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目に見える自分の様子だけでなく、表したい気持ちや感じ取ったことを画面上に効果的に表すための構想を練ること。 主題 ○ 自分の様子や気持ちが明確になるように、画用紙を縦に使うか横に使うか、大きさはどうするかなどの画面への入れ方、顔の表情や目の表現、角度などを考えながら画面を構成すること。 構想 ○ 鉛筆の特徴(濃淡や太さ)を生かして、表現する部位に応じて、 	<ul style="list-style-type: none"> ・どう表現したらいいかわからない児童には、構想ノートをふり返るよう言葉かけし、表現主題を見直させ、線描きの活動に進めるようにする。 ・構想ノートで自分の表したい様子や気持ちを確かめたり、画家の作品や友達の作品から表し方のヒントを得られるようにする。 ・線描きをなかなか進められない児童には画用紙に指描きをしたり、
			<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の特性を生かして表したい自分の様子や気持ちを考えながら線 	

		<p>描きをしている。 (創)</p>	<p>表し方を考えながら線描きすること。 材料・用具</p> <p>○ 表したい自分の様子や気持ちに合わせて、鉛筆の線の強弱をつけたり、濃淡で表したり鉛筆の特性を生かしながら線描きすること。 表現方法</p>	<p>黄色チョークでおおよその大きさを描いたりして進めるよう助言する。 ・線描材の質感についての資料を掲示しておく。 ・表現が小さくなったり、説明的になったりしている児童には、言葉かけにより、自分の表現したい様子や気持ちを見直させ、さらに様子や気持ちと画面構成を結びつけながら表現している児童の作品を紹介したり、画面構成についてのヒント資料を提示したりする。</p>
<p>終末</p>	<p>4. 本時学習をふり返り、次時の学習を知る。 (1) 図工ノートに自己評価をし、友達とや表し方のよさを交流する。 (2) 次時の学習を知り、見通しをもつ。</p>	<p>・友達の作品の表現の意図や表し方の工夫を感じ取り、自分の感じたことや想像したことなどを話し合っている。 (鑑)</p>	<p>○ 作品から表したい自分の様子や気持ちと画面構成（表情、角度、動き、大きさ、位置）を関連させた表し方の工夫や表現の意図をとらえ、見方や感じ方を深めること。 構想</p>	<p>・自分の活動をふり返ることができた児童には、友達の表し方のよさや自分の表し方との違いに目を向けるように助言する。</p>